

「水辺の楽校プロジェクト」の概要

「子どもの水辺」における環境学習や自然体験活動を進めるにあたって河川の整備が必要な場合に、自然の状態を極力残しながら瀬や淵、せせらぎ、ワンド等の自然環境を保全・復元するとともに、子どもたちが安全に自然に出会えるよう河岸等へのアクセス性の改善(水辺に近づける河岸整備)、管理用通路の整備等を行います。

平成22年3月末現在、「水辺の楽校プロジェクト」は全国で279箇所が登録されており、各地域の特色を活かした様々な取組みが展開されています。

＜水辺の楽校のイメージ図＞

小学校



河川管理者、地方公共団体、
教育関係者、市民団体等の体制
整備

＜完成後のイメージ＞



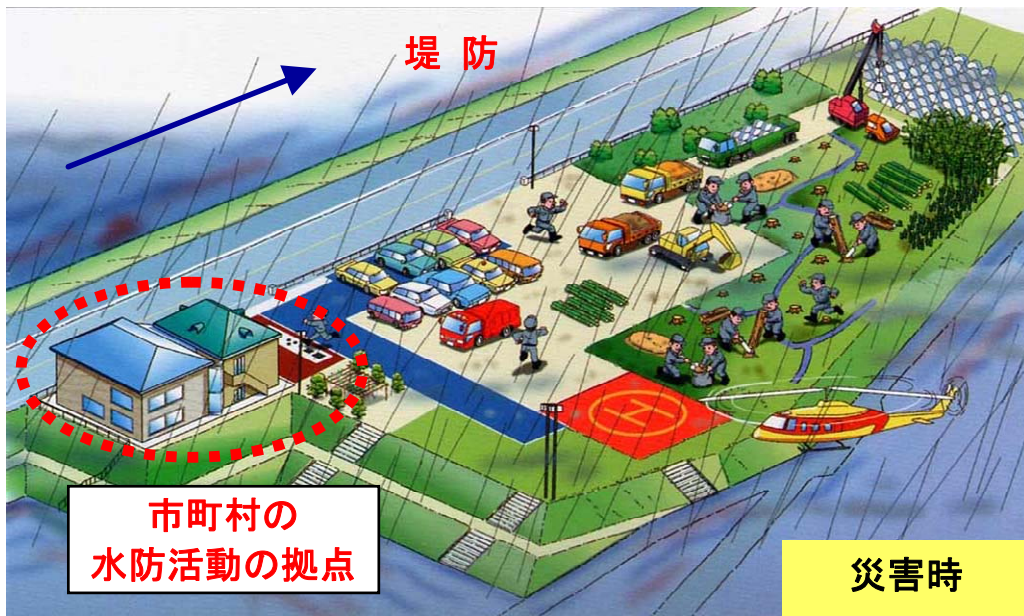
管理用通路や高水敷等を整備。流域の小学校
が総合学習の場として多数利用。

「河川防災ステーション」の概要

「河川防災ステーション」は、水防活動を行う上で必要な土砂などの緊急用資材を事前に備蓄しておくほか、資材の搬出入やヘリコプターの離着陸などに必要な作業面積を確保するものです。洪水時には市町村が行う水防活動を支援し、災害が発生した場合には緊急復旧などを迅速に行う基地となるとともに、平常時には地域の人々のレクリエーションの場として、また河川を中心とした文化活動の拠点として大いに活用される施設です。国土交通省では、今後も地方自治体と連携を図り計画的かつ積極的に整備していきます。

【災害時の活用】

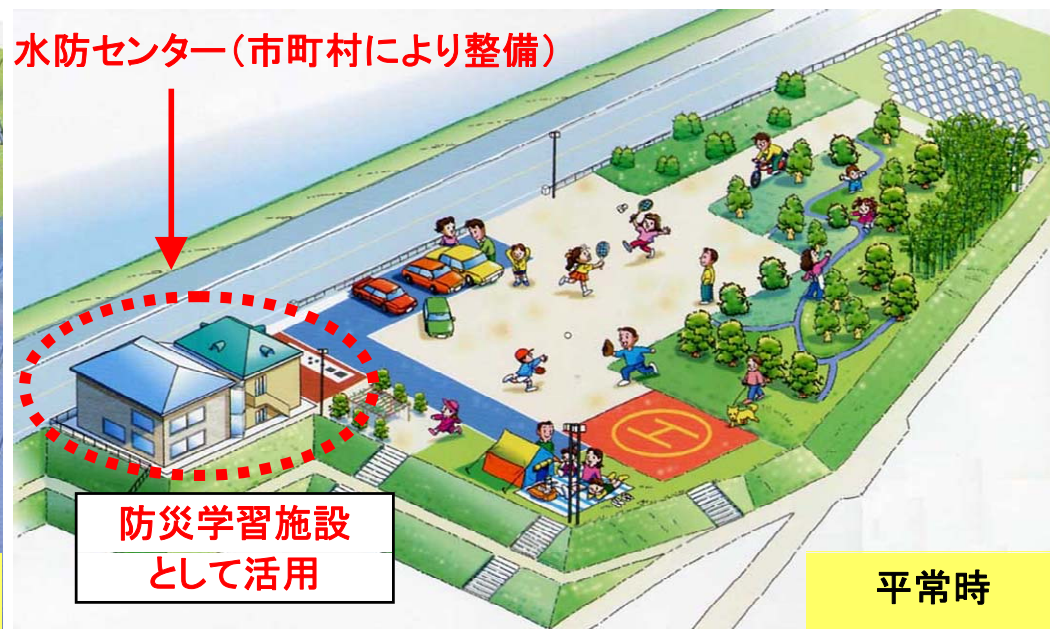
- ①緊急復旧用資材備蓄基地
- ②災害対策車両基地
- ③車両交換場所
- ④ヘリポート
- ⑤洪水時の現地対策本部
- ⑥水防団の待機場所
- ⑦水防倉庫
- ⑧一般住民の避難場所



<災害時のイメージ図>

【平常時の活用】

- ①コミュニティースペースとして地域に提供
- ②水防活動の訓練等に利用
- ③防災学習施設や川の情報発信拠点として水防センターを活用



<平常時のイメージ図>